


## 事業名

# 「となりの外国人とのおつきあい」 ワークショップ PartII おしごと編

## 実施団体

がい こく じん じょ せい かい  
**外国人女性の会**  
 ぱ る よ ん  
**パルヨン**




日本人向け「となりの外国人とのおつきあい」ワークショップ  
 「やさしい日本語」で外国人保護者と話すために  
 保育園・幼稚園・子育てサロン 編

3月7日 (土)  
 14:00~16:00 開場13:30

京都で暮らす外国人の中には、子育て中の方もたくさんおられます。

でも言葉の壁、習慣の違いに戸惑い、誰にどう相談したらいいかと悩んでいる人も少なくありません。一方、保育園や幼稚園にお勤めの方、保護者の方、子育てサロンの方など外国人親子に関わっている方々も、どうしたら心を通わせ、支援していけるか日々奮闘されているのではないのでしょうか。

日本で暮らす外国人の多くは、英語が母国語というわけではなく、早く日本語を覚えようとしている人もたくさんおられます。

そういう人には「やさしい日本語」を使うこと、例えば、おたよりでは「上履き持参をお願いします」は「スリッパ(靴)を持ってきてください」とルビやイラストをつけ、言い換えをすることで通じやすくなります。

このワークショップでは、「やさしい日本語」のコツを知り、実際に外国人ゲストと会話の練習をします。今後の現場でのよりよいコミュニケーションに役立てていただければと思います。

「やさしい日本語」だけでは解決できない多くの問題についても、どういった情報提供ができるか、考える場にしたいと考えています。

場 所 上京区総合庁舎 4階会議室  
 京都府京都市上京区堀出シ町283-1

対 象 保育士・幼稚園教諭など、  
 こどもや親御さんと関わる方

定 員 申込先着順 20名

参加費 無料

この事業は、「令和元年度上京区民まちづくり活動支援対象事業」として採択を受け、実施するものです。

主催 外国人女性の会パルヨン

パルヨンは、日本に暮らす外国人女性のために、日本人女性と一緒に外国人女性のための何でもしゃべれる会「アワー」を運営するなど、日本人と外国人の双方が暮らしやすくなるための活動を10年以上行っています。

申し込み受付中!  
 office@paruyon.com

3月3日締切

メールで、タイトルを「ワークショップ申し込み」とし、以下を明記のうえお申し込みください。

【参加日・お名前・ご連絡先・ご所属】

近年、あらゆる場面で、外国人居住者と日本人との適切なコミュニケーションの必要性が高まっています。そして、外国人にとって、自分が新しく住み始めた場所で、生活に必要なことを安心して相談できる場所が増えることは、とても大切なことです。

一方、特に公共性の高い施設においては、窓口対応に従事しておられる方々が、日本語に慣れない外国人への案内について、戸惑い、悩みながら、普段の質の高いサービスを提供しようと奮闘しておられます。

外国人女性の会パルヨンは、これまでの外国人住民の支援に加え、2017年度から、日本人向けの取り組みを始めました。「となりの外国人とのおつきあい」ワークショップは、2018年3月に発行した日本人向けガイドブック「となりの外国人とのおつきあい」を使い、「外国人が近所に住んでいたなら、交流したい」と思いつつも「コミュニケーションの不安と習慣の違いから、積極的になれない」という日本人の悩みに応え、日本人も外国人も住みやすいまちをともに作っていききたいという願いを込めて、実施したものです。

2019年度は、この取組をさらにすすめ、職域ごとにヒアリングした上で、現場の課題や悩みに合わせたワークショップを企画しました。ヒアリング対象は、銀行、病院、PTA、保育園、幼稚園などに対して計11回実施しました。ワークショップ対象は、【飲食店・小売店】【保育園・幼稚園・子育てサロン】を取り上げて実施することができました。

また、私たちワークショップ実施者のファシリテーション能力向上を目指して、ファシリテーション指導者から研修を受ける機会を設けました。



広報チラシ。この回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会議室での実施を急遽取りやめ、はじめてのオンライン講座に挑戦した。

ガイドブック「となりの外国人とのおつきあい」より

日本人向けガイドブック「となりの外国人とのおつきあい」は、上京区役所で無料配布をしています。また、パルヨンのホームページから、PDFを全ページダウンロードできます。  
<https://paruyon.jimdo.com/tonarinogaikokujin/>





## それぞれの職域に合わせた、きめ細やかなヒアリングを心がけました。

ワークショップの実施にむけて、丁寧なヒアリングを心がけ、パルヨンの先入観ではなく、それぞれの職場において外国人とのコミュニケーションの中で何が求められているのかを聞き取りました。例えば、商店であれば、お客として来る外国人に気持ちよく商品を買ってもらうことが必要とされていること。子育て支援の現場では、正解のない子供の成長をめぐって、外国人の親御さんとの間で支援者が信頼関係を結ぶことがなにより重要であること。一方、病院窓口では、外国人の患者さんやその家族とのやり取りで求められるのは、正確な情報伝達をして医療制度やその病院の受信フローについて納得してもらうことでした。ヒアリングにあたって、協力をしていただく際に、ワークショップに準じた資料作成を行い、その場でも先方に必要な情報をお渡しできるように心がけました。このようなヒアリングを元に、それぞれのワークショップ内容に合わせた資料作成することができました。

7月29日（元病院職員）  
10月31日（第二日赤病院）  
11月5日（千本商店街）  
11月21日（クリニック職員）  
11月27日（堀川商店街）  
12月6日（京都信用金庫西陣支店）  
12月12日（商店）  
1月28日（賀茂病院）  
1月30日（室町小学校PTA）  
2月22日（朱い実保育園）  
2月28日（せいしん幼稚園）

### ※「やさしい日本語」とは？

誰にでもわかりやすく配慮した日本語のことです。日本に住んでいる外国人の中には、日本人同士の日常会話やニュースの言葉はまだ聞き取れなくても、この「やさしい日本語」ならわかるという人が多いのです。文章の作り方のコツは…

- ① 1つの文をなるべく短くする
- ② なるべく熟語を使わないで、簡単な言葉を使う。
- ③ 方言は使わない。尊敬語・謙譲語は使わない。（使わなくても失礼ではありません）

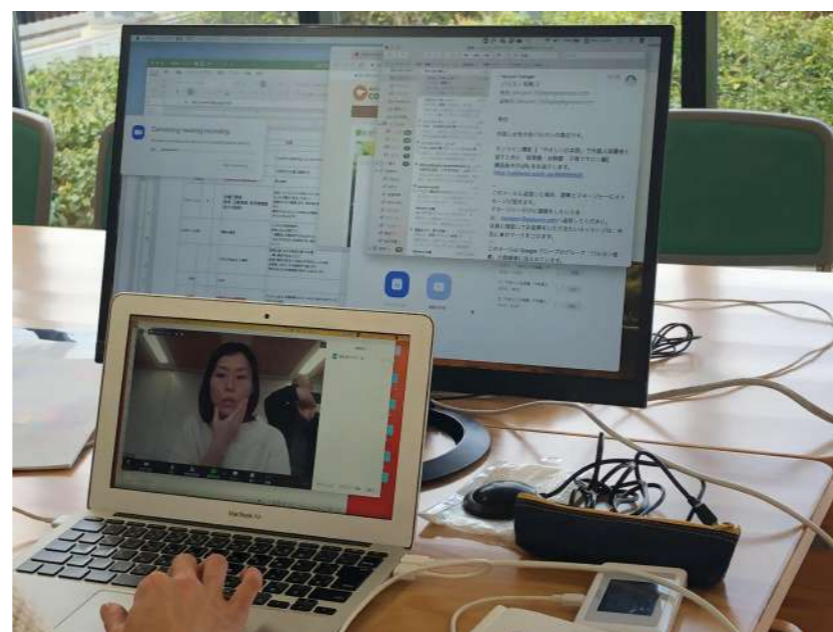
## まずは日本語で話しかけること。その意義とコツをお伝えしました。

例えば、2010年の国立国語研究所のデータでは、英語よりも日本語のほうが理解できるという定住外国人が18.6%も多いのです。このようなデータを基に、日本に住む外国人にとっての共通言語は日本語であることを説明し、外国人にとってわかりやすい「やさしい日本語」についてのレクチャーを行いました。その際には、ヒアリング内容を元に、それぞれの職種においてよく使う単語や言い回しを例として、参加者が自分のこととして考えられるようにしました。その後、参加者同士で外国人ゲストを交えたワークを行い、コミュニケーションについて考えてもらいました。

ゲストの外国人は、日本語初級程度の学習者にお越しいただきました。参加者にはその場で外国との文化の違いを学習しながら、普段の日本語の伝わりにくさや「やさしい日本語」の伝わりやすさについて体験してもらうことができました。



【飲食店・小売店での接客術】 2020年1月21日  
京都信用金庫西陣支店2階 クリエイティブcommons NISHIJIN  
参加者：19名



【保育園・幼稚園・子育てサロン編】 2020年3月7日  
オンライン講座（上京区総合庁舎区民交流会議室より配信）  
参加者：11名



ワークショップファシリテーター技術向上講座 2019年10月26日  
上京区総合庁舎4階 区民交流会議室  
講師：(有) ひのでやエコライフ研究所 ワークショップデザイナー 大関はるか氏